

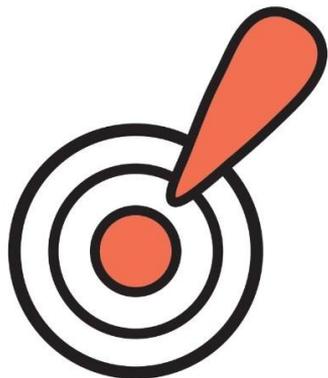
かわちラボ



かわちラボ

目次

1. 法人・自己紹介
2. 活動のきっかけ
3. かわちラボ活動
4. 今後の展望



かわちラボ

1. 法人・自己紹介
2. 活動のきっかけ
3. かわちラボ活動
4. 今後の展望



NPO法人ぬくもり 理事

岡田 悠利 (25)

誰もが自分を諦めず ”希望”を持てる社会の実現

経歴

- 2021～2023
不登校引きこもりの指導員
- 2022/10～
障害福祉生活介護職員
- 2023/3～
理事長との出会いで内定先辞退し入職
- 2023/4～
かわちラボ事業リーダーとして従事

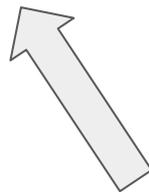
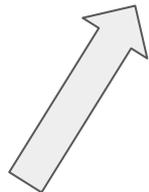
誰もが自分らしく生きられる、ぬくもりある社会

障害福祉領域

まちづくり

社会福祉法人
ぬくもり

NPO法人
ぬくもり



社会福祉法人ぬくもり

「相談する」



「育む」



「経験する」



「働く」



「住む」



変遷

2000年 任意団体「旅のボランティアグループぬくもり」

2002年 任意団体「外出支援会ぬくもり」

2006年 特定非営利活動法人ぬくもり

2017年 社会福祉法人ぬくもり

河内長野市と天理市で
複数拠点で運営中～！



かわちラボ

1. 法人・自己紹介
2. **活動のきっかけ**
3. かわちラボ活動
4. 今後の展望

活動のきっかけ



①障害福祉の事業をする中で、河内長野の
“生きづらさを抱えるこども”の現状が聴こえていた

②障がい児者支援で培った関わり方を
生きづらさを抱えるこどもたちにも



③「誰もが自分らしく生きられる
ぬくもりある社会」という理念とのジレンマ



子ども
第三の
居場所

5つの機会

「子ども第三の居場所」では、子どもたちの
生き抜く力を育むため5つの機会を提供しています。



安心

子どもたちが安心・安全に過ごせるよう、居心地のよい環境づくりに努めています。「ここに居ていいんだ」と思ってもらえるよう、まずは子どもたちのありのままを受け入れることから始めています。



食事

毎日栄養バランスを考慮した温かい食事を無料で提供しています。子どもたちの健康を支えると共に、準備や片付け等も子どもたちと行うことで、食の大切さ、みんなで食事することの楽しさを伝えています。



生活
習慣

子どもの中には、基本的な生活習慣が身につけていないケースもみられます。食事、着替え、入浴、歯磨き、挨拶等の基礎的な生活習慣を整えます。また、友達や大人との関わり方を学び、社会性を培っています。



学習

学習習慣が定着するよう、毎日スタッフによる宿題指導を行なっています。分からないところまで遡った学習支援に加え、座ってられない等の課題がある子どもは情報面や発達障害の可能性も考慮して支援します。



体験

旅行、キャンプ、料理、音楽・プログラミング等の教室を通して、チャレンジ精神、自己肯定感、主体性、対人コミュニケーション等、「非認知能力」を育みます。

「子ども第三の居場所」 展開モデル例

「子ども第三の居場所」は、各地域の実情に応じて運営しており、ここでは3つのモデルを紹介いたします。

常設ケアモデル

- 運営主体 社会福祉協議会等(子ども100名程度)
- 運営時間 月曜～金曜、10:00～20:00
年休(年末年始、12月31日)
- 運営場所 シンボル、学習、図書スペース、キッチン
風呂、トイレ
- スタッフ シニア・中高生、ボランティア
- フォンドラ 読書ボランティア、学習支援員、美術講師
等(地域関係者による)
- 利用料金 運営費、および利用者や生活保護受給者は無料に
限りながら実施

とある拠点での1日

11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
開所	おやつ	読書時間	学習時間	夕食	自由時間	自由時間	夕食	自由時間

11:00 開所
12:00 おやつ
13:00 読書時間
14:00 学習時間
15:00 夕食
16:00 自由時間
17:00 自由時間
18:00 夕食
19:00 自由時間

11:00 開所
12:00 おやつ
13:00 読書時間
14:00 学習時間
15:00 夕食
16:00 自由時間
17:00 自由時間
18:00 夕食
19:00 自由時間

11:00 開所
12:00 おやつ
13:00 読書時間
14:00 学習時間
15:00 夕食
16:00 自由時間
17:00 自由時間
18:00 夕食
19:00 自由時間

特徴

- 多世代が交流する居場所
読書や学習を通して子どもと関わり、そして子どもと関わることで、子どもと関わる機会が増え、心豊かな子どもを育てることに貢献しています。
- 地域資源の活用
読書ボランティア、学習支援員、美術講師等(地域関係者による)を活用し、子どもと関わる機会を増やしています。
- 運営費負担
運営費、図書費、子ども図書券(レンタルブック)等、運営費負担は、子どもと関わる機会を増やしています。

学習・生活支援モデル

- 運営主体 小学生～高校生10名程度
- 運営時間 居場所 火・水・木(土日開放)
カフェ 11～19時(月曜定休)
- 設備仕様 学習室、遊び場、カフェ、畑
- スタッフ 職員2名、ボランティア6名
- フォンドラ シニアボランティア、学生ボランティア、地元企業(地元関係者による)
- 利用料金 運営費、および利用者や生活保護受給者は無料に
限りながら実施

居場所での1日

11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
開所	おやつ	読書時間	学習時間	夕食	自由時間	自由時間	夕食	自由時間

11:00 開所
12:00 おやつ
13:00 読書時間
14:00 学習時間
15:00 夕食
16:00 自由時間
17:00 自由時間
18:00 夕食
19:00 自由時間

11:00 開所
12:00 おやつ
13:00 読書時間
14:00 学習時間
15:00 夕食
16:00 自由時間
17:00 自由時間
18:00 夕食
19:00 自由時間

11:00 開所
12:00 おやつ
13:00 読書時間
14:00 学習時間
15:00 夕食
16:00 自由時間
17:00 自由時間
18:00 夕食
19:00 自由時間

特徴

- 多世代が交流する居場所
地域の方が気軽に立ち寄れる居場所です。多世代と関わることで、人と接する力や自己肯定感を高めます。また、地域の人々の繋がりを深め、課題がある子どもの早期発見や見守り、学習支援を行います。
- 地域資源の活用
子どもたちに、より多くの体験機会を提供するため、地域の既存の建物や農作物を使ったり、学生・高齢者ボランティア、地元企業の協力を得るなど、地域資源を有効活用します。元教員による学習支援も、また、カフェや弁当販売等の自主事業で収益を得て、地域密着型で事業を継続します。

コミュニティモデル

- 対象児童 小学生～高校生30名程度、子ども食堂開催日100名
- 運営時間 居場所 火・水・木(土日開放)
カフェ 11～19時(月曜定休)
- 設備仕様 学習室、遊び場、カフェ、畑
- スタッフ 職員2名、ボランティア6名
- プログラム 学習支援、体験活動、おやつ
第2・4土曜子ども食堂
- 利用料金 無償、カフェ利用は有料

とある拠点での1日

11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
カフェ	ランチ	おやつづくり(ボランティア)		おやつ、宿題、遊び、収穫体験	学習支援/体験活動(ボランティア)	夕食提供(有料)		帰宅
学習室、遊び場	地域サークル活動							

子どもだけでなく、地域の居場所としても活用。

シニアボランティアと畑に行ったり、思い思いに過ごします。

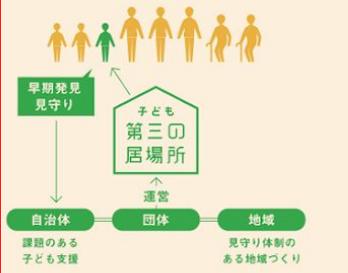
ボランティアに教えてもらいながら宿題の時間。子どもたちの相談相手にも!

夕食はカフェを利用。支援が必要な子どもは無料です。



特徴

- 多世代が交流する居場所
地域の方が気軽に立ち寄れる居場所です。多世代と関わることで、人と接する力や自己肯定感を高めます。また、地域の人々の繋がりを深め、課題がある子どもの早期発見や見守り、学習支援を行います。
- 地域資源の活用
子どもたちに、より多くの体験機会を提供するため、地域の既存の建物や農作物を使ったり、学生・高齢者ボランティア、地元企業の協力を得るなど、地域資源を有効活用します。元教員による学習支援も、また、カフェや弁当販売等の自主事業で収益を得て、地域密着型で事業を継続します。



提示モデルは参考事例です。各地域により運営内容には違いがあります。



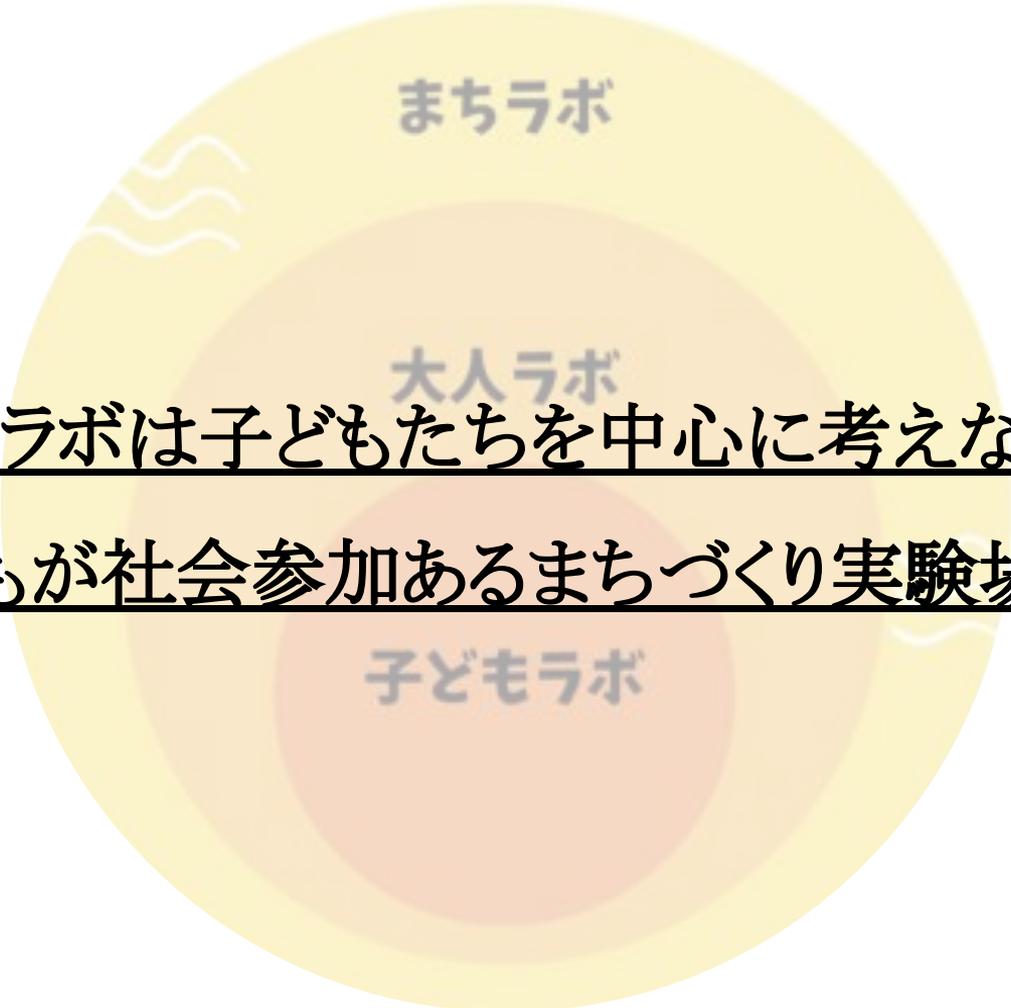
かわちラボ

1. 法人・自己紹介
2. 活動のきっかけ
3. **かわちラボ活動**
4. 今後の展望

まちラボ

大人ラボ

子どもラボ



まちラボ

大人ラボ

かわちラボは子どもたちを中心に考えながら

誰もが社会参加あるまちづくり実験場

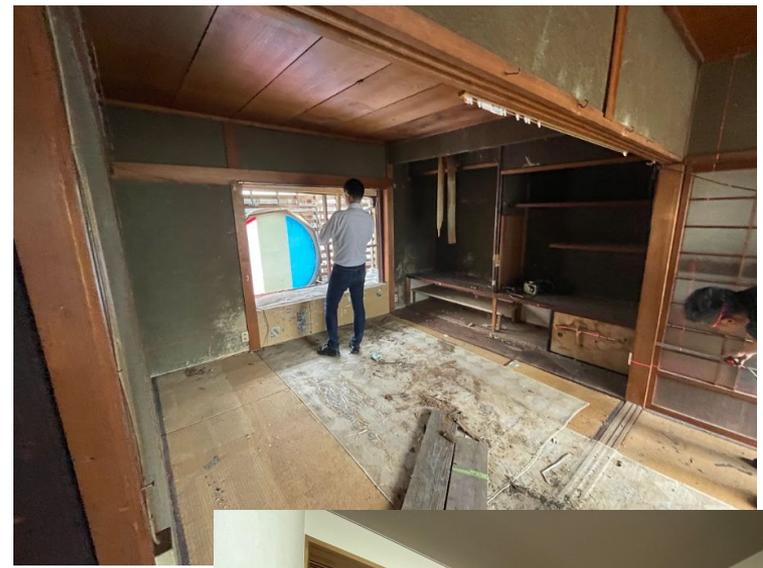
子どもラボ

✨大改造！劇的ビフォーアフター～かわちラボ編～✨









こどもラボ

”ありのまま”が育つ
はじまりの場所



放課後フリースペース

『自由に過ごせるフリースペース』

【内容】

- ①安心して自由に過ごせるプレイルーム
- ②イベントを企画して楽しめる場所

【対象】

小学生～高校生なら誰でも(無料)

【日時】

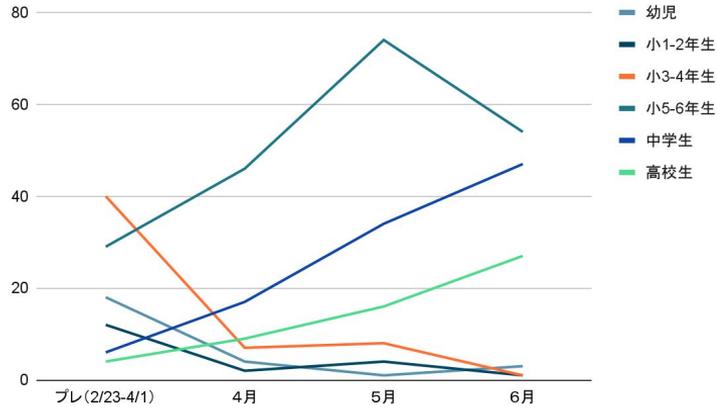
月/水/金 15:30～19:00(祝祭日は除く)





■ 2/23 プレオープン初日
 (はーとフェス・スマイルフェスタ)
 ⇒ 子どもたちが約50名

■ 4/3～本格開始
 ・自転車来る小学4年生～中学1年生が多い
 ・中高生も少数ではあるが、
 継続してきてくれている子がいる



【フリースクール風景】

・朝のミーティングで、各自が好きな過ごし方を考える

- ・将来エスキース
- ・旧松中亭



カリキュラム

自分自身を認められる

地域を探検したり、
職業体験をしたり、
まちの課題解決を
したりしながら、
未来を想像する
探求学習を実施。

地
域
ラ
ボ

自
分
ラ
ボ

安心安全の環境

自分の強みは、
好きなことは、
なりたい自分は、
楽しみながら、
自分のペースで
自己探求を実施

駄菓子屋

定期的に変化する駄菓子屋さん

『オーナーは子どもたち！！』

【内容】

- ①定期的に変化する駄菓子屋
- ②創る主役は子供たちです！
- ③ちゃんと駄菓子屋です😊

【対象】

誰でも(大人の皆さんもぜひ～！)

【日時】

月/水/金 15:30～18:00予定(祝祭日は除く)



こどもラボ



第1回 1/20



第2回 2/25



第3回 3/17





第4回 3/30



開店！ 4/8

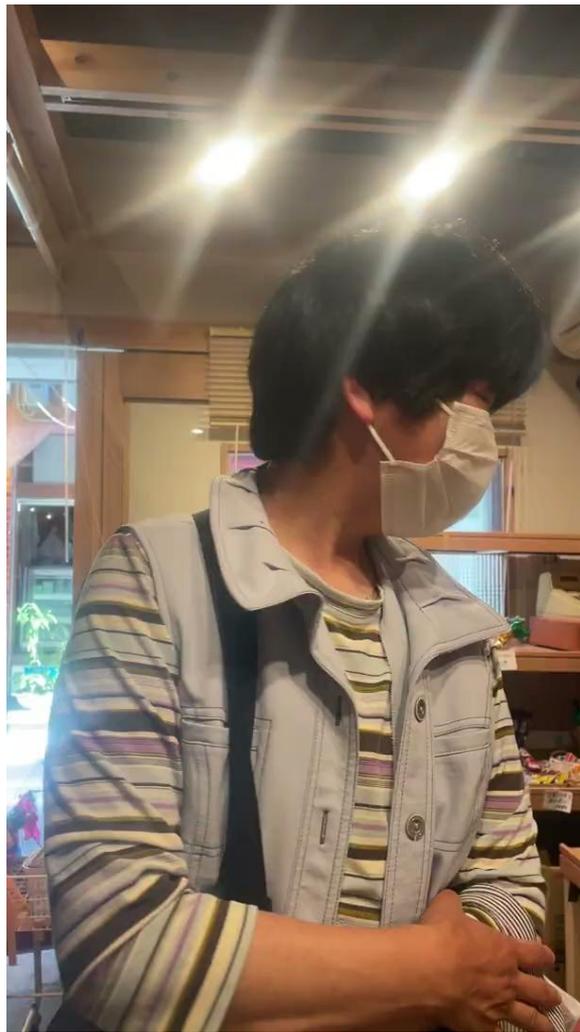


第5回 4/28



棚などを譲ってくれた 🐰 ラビットハウス 🐰





お客さんたち 





水曜日のお店番 さいとうさん ♡



金曜日のお店番 たなかさん ♡



せかいにひとつのひみつの駄菓子屋
～ただいまカフェ支店 ☕～

おとなラボ



OtonaLab.

”らしさ”が紡ぐ
つながりの場所



おとなラボ

イベント事業



支援者 Bar

子供に関わる仕事をする人が
集まり、繋がり、悩みを共有しあえる
イベントを準備中！7月実施予定！

相談員言いたい組合

地域の相談に関わる業務を行っている人が、
縦割りを超えて繋がる定例ワークショップ！
6月実施予定！



まちラボ

”つながり”が生む
それぞれの場所



MachiLab.



まちラボ



かわちながの こどもとまちのみらいダイアログ Vol.1

2023年8月20日(日)開催

河内長野の「こども」のことから「まち」の未来のことまで、福祉分野だけでなく、あらゆる分野の方々と対話し考える

(パネリスト)

- ▷新谷紀子氏 子育て・発達サポートかもみーる代表
- ▷高比良昌也氏 河内長野市商店連合会会長。
(有)LIVING河内長野 代表取締役
- ▷西河裕次郎氏 相談支援りんく相談支援専門員

(ファシリテーター)

- ▷宮崎充弘氏
河内長野市自立支援協議会子ども部会 学識者メンバー
かざみどり塾 塾長

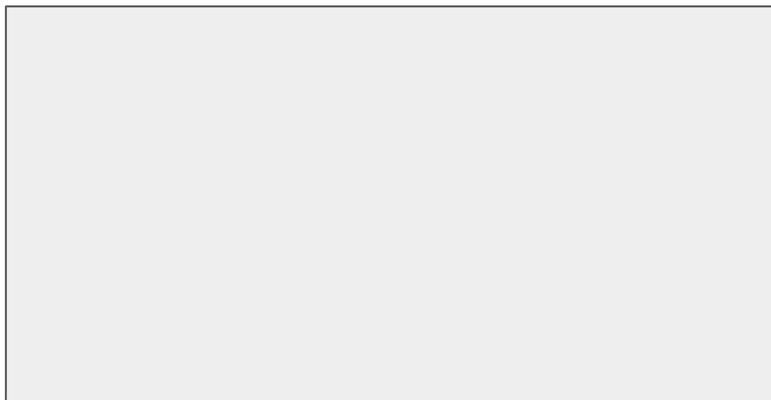


チャリティーソーシャルバー

地域で活躍する方の話を聞きながら、お酒あり、
語らいありの緩やかな空間で、河内長野を感じる地域交流イ
ベント

《 Vol.1 》 2023年10月22日(日)開催
(トークゲスト)

- ▷坂元俊文氏
セブンイレブンオーナー
- ▷蔵之前真一郎氏
南河内×インクルーシブ×プロジェクト実行委員長



《 Vol.2 》 2024年1月27日(土)開催
(トークゲスト)

- ▷小倉明義氏
一般社団法人キッチンカーマルシェ協会代表理事



かわちラボ

1. 法人・自己紹介
2. 活動のきっかけ
3. かわちラボ活動
4. 今後の展望



今後の展望

「地域のハブ拠点」

&

「地域のまちづくりラボ」

お願い



かわちラボ
まちのスクール

まちを冒険して学ぼう！

Free Schoolが
河内長野駅前商店街の一角に

New Open

説明会開催中！
毎週水曜・第4土曜
10:30~11:30

参加料は無料
参加可能です。
詳しくはLINE
をご覧ください

少しでも興味ある方はこちら

QRコード

チラシの設置



職業体験 や 見学先



寄付募集



連携

【今後の課題】

**面白い、楽しそう、こどものためになる、社会良くなりそう！
という良い取り組みを行なっているものの、収益化することが
難しく苦戦してしまう。どのようにしてその良い取り組みを、
収益とセットして行えるか？**

文化祭

28日の文化祭

28日展示(駄菓子出張)

子どもたちと一緒にコラボ。

招待券スタイル(事前名簿を出す)

23日ボランティアの前に、

【今後の課題】

- ・利用者の年齢層に偏りがあるため、幅広い年齢層に情報が届くような広報活動を検討する必要がある。
- ・ボランティアスタッフの募集が出来ていないため、より充実したプログラムを提供するためにも協力者を増やしていく必要がある。
- ・ボランティアだけでなく、寄付の呼びかけも行っていく必要がある。
- ・運営費収入を得るためのコワーキングスペースおよび貸会議室等のレンタルについての事業設計も早急に行う必要がある。
- ・来年度のなるべく早い時期に食事提供ができるよう準備を進める。
- ・子どもの平均人数を増やしていく。特に、行政や関係機関との連携で訪れてくれる子どもを増やす。

ご清聴ありがとうございました！！

